

Theme

テーマ

地域とつながり、地域とともに育む農泊

農泊が描き出す新しい農山村の姿



主会場：芝居小屋「東座」

岐阜県では、豊かな自然とその恵みに育まれた農林漁業や伝統文化を地域資源ととらえ、それらを活かしたグリーンツーリズムが積極的に展開されてきました。近年その取り組みは移住者をはじめとする若い世代へと裾野を広げ、新しい担い手による暮らしの創造へと加速しています。そしてそれは、農山漁村滞在型旅行「農泊」として、都市に住む方々へ都市農村交流の新しい姿を提案しています。

本大会は、岐阜県各地に生まれ地域の特色を活かして育ちつつある農泊の実践を、ここ白川町黒川地区の農泊実践と対峙することで、地域の特徴を浮き彫りにして、さらなる「ぎふらしい」「ぎふならではの」グリーンツーリズムの発展をめざします。

ウィズコロナの時代に私たちが創造すべき新しいグリーンツーリズムのあり方を共に考え、これからの農山村の可能性を共に考える大会といたします。

基調講演

講師 「地域まるごと宿一持続可能な暮らしのために」 中村功芳 (NPO 法人アースキューブジャパン代表理事)



「日本の観光地は、客が押し寄せると大手のホテルチェーンが進出して地元の商店街が衰退します。観光客が減少し始めるとホテルは撤退し、廃墟だけが残されます。これでは地域の人は幸せにはなりません。持続可能な観光地は、地域の人の暮らしの笑顔が大切なのです。」と語る中村功芳さん。氏は、「地域まるごと宿」や「地域と生きるゲストハウス開業合宿」などを各地で開催し、100ヶ所以上の開業に関わり、大きなムーブメントを作ってきました。地域とともにあり、核となる宿とともに農泊を実践して、持続可能な暮らしを実現する、氏の哲学と手法に学びます。

中村功芳 (Nakamura Tsuyoshi)
NPO 法人アースキューブジャパン代表理事。主催する「地域と生きるゲストハウス開業合宿」では、全国で開業した人が120名を超え、全国モデルになるまちづくりの拠点や産業を創出し、ローカルビジネスの成功事例と高い評価を受ける合宿をプロデュース。自らを主体となり、地域活性化のため、空家を活用してカフェやゲストハウス、地域ブランド開発の運営を始め、わずか3年で世界52カ国、3年間で120,000人以上が訪れる拠点をづくり、小さな空家から地域に対する経済効果は5億円を超えた。オーライニッポン大賞 2016年フレンドシップ賞、ツーリズム EXPO ジャパンにて 2015年観光庁長官からその取り組みを表彰される。世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」の (Certificate of Excellence) を3年連続受賞。

ランチはオーガニック食材を使った「暮らすファーム sunpo」のお弁当



昼食 Lunch
地元天然帖の炊き込みご飯と有機農家のおかず

地元食材をたっぷり使った夕食で、講師陣、参加者のみなさんとの大交流会を催します。今年は白川茶で乾杯！ぎふのグリーンツーリズムを盛り上げる仲間たちと、大会2年分の想いを語り合ひましょう！今年はノンアルコール交流会です。



大交流会は「農家レストランまんま」による旬の家庭料理・創作料理

※写真はイメージです。

Exchange meeting

大交流会

fieldwork

フィールドワーク

現場に立ってみたいと分からないこともある！講師の方々と共にフィールドへ行って、まずは体感しよう。

*3つのフィールドワークから一つを選んで参加していただきます。

01 Kurokawaウォークラリー

歩いて見つける地域の魅力！



移住者が多く入っている黒川地区。白川町の中でも四方を山に囲まれ箱庭のように美しいエリアです。あなたがこの地域で農泊を実施するなら、どんな魅力を掘り起こして発信しますか？5000冊の本を所蔵する「里山ゲストハウス 晴耕雨読とみだ」をスタート&ゴールにして、クイズラリーに挑戦！地域の魅力を発見する瞬間を共有しましょう！

会場 晴耕雨読とみだ周辺

02 茶レンジ！「お茶ラボ」

特産品を使った実践アイデア集！



「お茶」を使った新しい価値の創造・・・。「お茶ラボ」とは、お茶を使った実験室です。お茶農家でもある渡辺義正さんが新しいお茶の楽しみ方を提案。体験しながら、地域の特産品や食文化のリノベーションの方法を学びます。お茶を愛する渡辺さんのアイデアが生まれる源泉・・・「どんなとき思いついたか？」「何を参考にしたか？」などもたっぷり伺います。

会場 黒川ふれあいセンター

03 有機農家の体験農園めぐり

農をベースにした個性的な場所づくり！



有機農業を核にしたまちづくりで内閣総理大臣賞を受賞した「NPO 法人ゆうきハートネット」。法人を担う有機農家たちの個性的な農園は、都市とのつながりを持ち、多様で常に変化しています。農ある暮らしを軸にして、ここにしかない体験プログラムを創っているそれぞれの農園を実際に訪れて、経営主でもありインストラクターでもある講師のみなさんとお話を伺います。

会場 黒川地内（マイクロバスで移動）

subcommittee meeting

マッチング型 分科会

違う特徴を持つ2つの団体が、一つのテーマをもとに強みや弱みをさらけ出すマッチング型分科会！リアルな悩みや課題を話し合うことで、化学反応が起きる？

*3つの分科会から一つを選んで参加していただきます。

01 エリアで発信する拠点づくり！

ぼくたちはこうやって農泊を創ってきた！



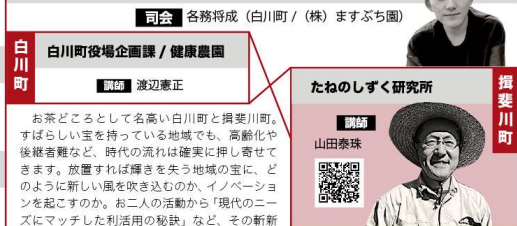
白川町 白川町グリーンツーリズム協議会
講師 塩月洋生 / 塩月祥子

地域ぐるみで農泊実践！って言うけど、そう簡単じゃない！ご当地白川町と郡上市高鷲町の仲間たちが、どんなふうにも農泊事業を立ち上げてきたか！オシャレなホームページを作って発信を始めるのと外からはよく見えるけど、なぜ今グリーンツーリズムだったの？協議会と地域との関わりはどうなってる？2つの地域のリアルな声をぶつけ合って、グリーンツーリズムをハブにした小さな拠点づくりの今を語る。

会場 芝居小屋「東座」

02 茶ノバージョン！！

お茶の産地の新たな価値の見出し方！



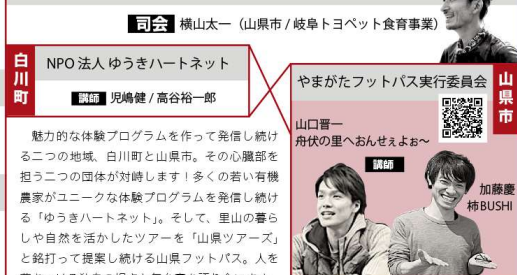
白川町 白川町役場企画課 / 健康農園
講師 渡辺義正

お茶どころとして名高い白川町と揖斐川町。すばらしい宝を持っている地域でも、高齢化や後継者難など、時代の流れは確実に押し寄せてきます。放置すれば輝きを失う地域の宝に、どのように新しい風を吹き込むのか、イノベーションを起こすのか。お二人の活動から「現代のニーズにマッチした利活用の秘訣」など、その斬新な取り組みに学びます。

会場 黒川ふれあいセンター

03 ぼくらの体験プログラム創作作法

暮らし+里山+好きなコトを体験プログラムに！



白川町 NPO 法人 ゆうきハートネット
講師 児嶋健 / 高谷裕一郎

魅力的な体験プログラムを作って発信し続ける二つの地域、白川町と山県市。その心臓部を担う二つの団体が対峙します！多くの若い有機農家がユニークな体験プログラムを発信し続ける「ゆうきハートネット」。そして、里山の暮らしや自然を活かしたツアーを「山県ツアーズ」と銘打って提案し続ける山県フットバス。人を惹きつける独自の視点と舞台裏を語り合います。

会場 黒川マルケ